

富山県空港スポーツ緑地

「インクルーシブひろば」

これまでのあゆみ

令和8年3月

富山県 土木部 都市計画課 公園緑地係

目次

1. はじめに
2. インクルーシブ遊具の試行設置
3. インクルーシブひろば設計・整備
4. インクルーシブひろばオープン
5. 利用促進に関する取り組み
6. 遊具増設について

1.はじめに

富山県空港スポーツ緑地では、年齢や障がいの有無にかかわらず、誰もが安心して遊び、交流できる遊び場づくりを目指し、「インクルーシブひろば」の整備を進めてきた。

当ひろばは、インクルーシブ遊具の試行設置を経て、利用者や関係者の意見を取り入れながら、段階的に環境整備や利用促進の取組を進めている。

本資料では、インクルーシブひろばの整備から現在までのあゆみを紹介する。

2. インクルーシブ遊具の試行設置

令和3年9月～10月 インクルーシブ遊具試行設置

- ・ **サンドボックス予算（※）**を活用し、富山県空港スポーツ緑地ゲートボール場において、**インクルーシブ遊具の試行設置**を行った。
- ・ 試行設置では、車いすでもアクセスできる複合遊具、ハーネスサポート付きブランコ、互いの顔が見えることで安心して遊べる回転遊具、複合ネット遊具（10月のみ）の4種類を設置した。



車いすでもアクセスできる複合遊具



ハーネス付き3連ブランコ



回転遊具



複合ネット遊具（10月のみ）

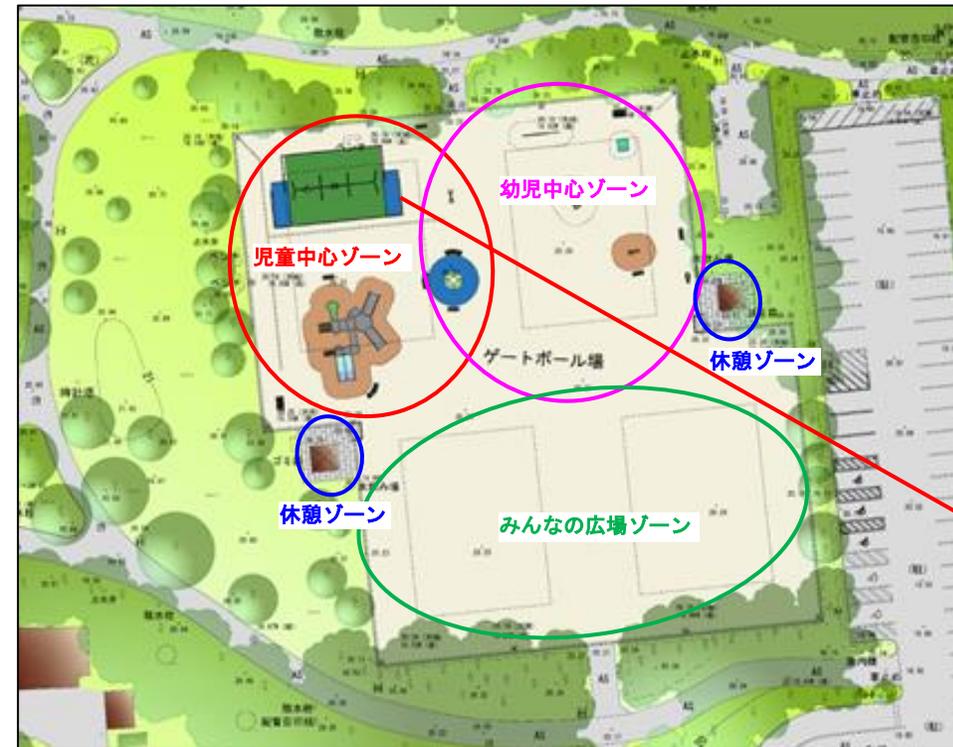
（※）サンドボックス予算…現場の視点やアイデアをいかした試行的事業を行う富山県の特別枠予算

3. インクルーシブひろば設計・整備

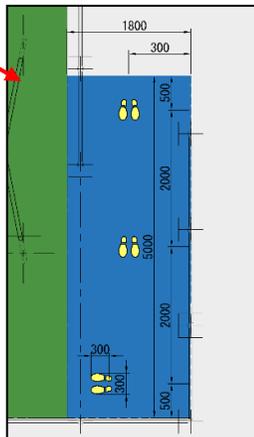
令和4年度 インクルーシブひろば設計・整備

- ・ 試行設置時のアンケートで常設を望む声が多く寄せられたことから、令和4年度にゲートボール場を「インクルーシブひろば」として整備することとした。
- ・ ひろば内は、児童中心ゾーン、幼児中心ゾーン、休憩ゾーン、多目的に利用できる「みんなの広場ゾーン」に分けて計画した。
- ・ 設計にあたっては、教育・医療・福祉関係者へのヒアリングをもとに、感覚遊びを促す遊具配置や、順番待ちを促す足跡マークの設置など、安全性や使いやすさに配慮した。

<インクルーシブひろば平面図>



<足跡マーク>



3. インクルーシブひろば設計・整備

令和5年3月 第1回 出前授業の実施

- ・ひろばのオープンに先立ち、近隣の富山市立新保小学校全校児童を対象に出前授業を実施し、設置目的や利用ルールに加え、富山県教育委員会と連携してインクルーシブについて学ぶ機会を設けた。
- ・授業後、新保小学校4年生が「インクルーシブ子ども宣言」を作成し、ひろば中央に設置した。
- ・子ども宣言は、現在もひろばのシンボルとして受け継がれている。



4. インクルーシブひろばオープン!

令和5年3月28日 インクルーシブひろば お披露目会

- ・令和5年3月、インクルーシブひろばがオープンし、年齢や障がいの有無にかかわらず、誰もが一緒に遊べる広場として利用が始まった。
- ・オープン当日は、富山市恵光学園の園児、富山市新保なかよし認定こども園の園児、富山市立新保小学校児童が参加し、ひろばの遊びはじめを行った。



5. 利用促進に関する取り組み

令和5年7月 みんなが使いやすいインクルーシブひろば会議開催

- ・ひろばオープンから4か月後、障がいのある子どもの利用が想定より少ないという課題を受け、課題解決と利用促進を目的に「みんなが使いやすいインクルーシブひろば会議」を開催した。
- ・会議には、障がい者団体、地元関係者、整備時に助言をいただいた委員10名が参加し、保護者からは「他の子に迷惑をかけるかもしれない」「周囲の視線が気になり公園利用をためらう」といった声が紹介された。
- ・指定管理者が実施したアンケート（※）では、利用者のうち障がいや発達特性のある子どもの割合は約7%であることが分かった。
- ・会議は、令和6年3月、令和7年2月、令和8年2月にも開催し、利用状況や取り組み内容について共有している。



<参考>

- ・県内の障がいもしくは支援を必要とする児童の割合 約10%
- ・令和3年度 試行設置の際の割合 約21%
- ・東京砦公園みんなの広場での利用実態調査の割合 約14%

（※） イベント時ではなく、通常時の障がい児の利用割合

「みんなが使いやすいインクルーシブひろば会議」の詳細は[こちら](#)

5. 利用促進に関する取り組み

令和5年9月～ 定期的に「インクルーシブDAY」を開催

- ・ 会議での意見を踏まえ、スタッフが常駐して子どもたちの遊びを見守り、必要に応じてサポートを行うイベント「インクルーシブDAY ～遊びたいを叶える日～」を開催。
- ・ 公園の遊び場に行きづらさを感じている保護者の心理的負担を軽減することを目的としている。
- ・ イベントでは、クイズラリーや遊び道具の貸出しに加え、令和5年10月以降はヘルプマークシールの配布も行っている。
- ・ 「インクルーシブDAY」は今後も定期的に開催する。



ヘルプマークシール

理解してほしいことや、
気をつけてほしいことを
周りにスムーズに伝える
ためのシール

5. 利用促進に関する取り組み

令和6年10月 「すまいるトイレ」 (ユニバーサルトイレ) の設置

- ・ 毎年実施しているアンケート調査で「トイレをきれいにしてほしい」「日陰が欲しい」などの利用者の声を受け、インクルーシブひろばの隣に新たなトイレを整備した。
- ・ トイレには、自動販売機や手洗い場、男女両方のトイレに幼児用便器を設けたほか、ユニバーサルシート (介助用ベッド) を備えた個室を整備した。
- ・ **公園屋外トイレとして先進的な、気持ちを落ち着かせるためのカームダウンルームも併設している。**
- ・ 「使う人みんなが笑顔になってほしい」という思いを込めて、ひろば会議委員の意見をもとに「**すまいるトイレ**」と名付けた。



6. 遊具増設について

令和7年5月 第2回 出前授業の実施

- アンケートでは、トイレに関する意見のほかに「幼児向けの遊具が多く、小学生でも遊べる遊具を増やしてほしい」「幼児と小学生が同じ遊具で遊ぶため衝突の危険がある」といった意見が寄せられた。
- こうした既存のひろばの課題を解決するため、「**小学校高学年も楽しめる遊具でありながら、誰もがチャレンジできる要素を取り入れる**」という方針のもと、近隣の新保小学校と連携して新たな遊具の検討を進めることとなった。
- 新保小学校との連携に先立ち、全校生徒を対象とした第2回出前授業を実施した。



6. 遊具増設について

令和7年6月 「新保の誇り～インクルーシブひろばChangeプロジェクト～」始動

- ・新保小学校5年生の「総合的な学習」の時間に「**新保の誇り～インクルーシブひろばChangeプロジェクト～**」として、県と小学校が連携し、遊具の検討を進めた。
- ・授業では、指定管理者からインクルーシブひろばの現状や課題について話を聞き、改善のポイントや他県の事例を学びながら、「インクルーシブとは何か」をそれぞれが考えた。
- ・「みんなが使いやすいインクルーシブひろば会議」委員の協力のもと、障がい児支援者や支援団体の方、保護者からお話を聞き、実際の思いを学んだ。
- ・また、富山大学の協力により、アイマスクや車いすを用いた疑似体験を行い、障がいへの理解を深めた。

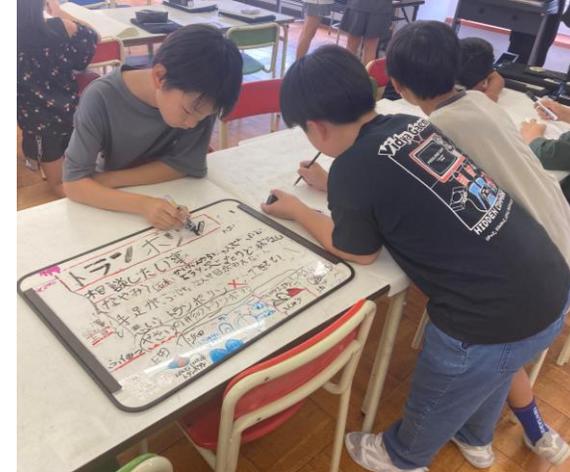


6. 遊具増設について

令和7年9月 「新保の誇り～インクルーシブひろばChangeプロジェクト～」 児童からの提案

- ・委員のお話や体験授業を経て、児童はそれぞれ「大切にしたい人」を思い浮かべながら、インクルーシブひろばに必要なことについて考え、テーマごとにチームに分かれて遊具等を検討するワークショップを行った。
- ・ワークショップでは、使う人の立場や気持ちを想像しながら意見を出し合い、10チームそれぞれが工夫を凝らした提案をまとめた。
- ・提案の中には、遊具だけでなく、看板やポスター、床材の工夫など、インクルーシブの考え方を広げる内容も多く盛り込まれた。(※)

(※) 新保小学校では20回以上、本取り組みに関する授業に取り組んでいただいた。



<チーム名・検討内容>

- ・レインガードチーム (雨よけ対策を検討)
- ・楽しく遊べるすべり台チーム (滑り台を検討)
- ・アスレチックチーム (アスレチック遊具を検討)
- ・ボルダリング登るぜチーム (ボルダリング遊具を検討)
- ・楽しさびょうどうトランポリンチーム (トランポリンを検討)
- ・ゆかりチーム (床材を検討)
- ・点字言語気持ちチーム (点字や言語の学習方法を検討)
- ・看板理解チーム (看板の伝わりやすさを検討)
- ・チラシずしチーム (ひろばを紹介するチラシを検討)
- ・ポスターチーム (インクルーシブを伝えるポスターを検討)

6. 遊具増設について

令和7年11月 増設する遊具が決定

- ・ 複数回のワークショップを経て、子どもたちの提案内容を整理し、**複合遊具**と**車いすのまま利用できるトランポリン**を整備することが決定した。

富山「インクルーシブひろば」
新保小児童提案新設へ

富山、富山市新保小学校の5年生から募ったアイデアをもとに、空港スポーツ緑地の「インクルーシブひろば」（同市塚原）に新設する遊具を決定し、11日に同校で児童に発表した。来秋までに設置される予定で、児童は「自分たちの思いが取り入れられてうれしい」「遊んでみたい」と完成を心待ちにした。（新井翔大）

インクルーシブひろばは、遊具を増やしてほしい」との障害の有無にかかわらず楽しめるよう、ハート付きのフロンコなどを備えた公園で、5年生50人は総合的な学習で障害者から話を聞いた。利用者がアンケートで「幼児向けが多く、小学生も遊べるインクルーシブの考え方を学んだ。遊具のアイデアを班ごとにまとめ、県に提案してきた。新設されるのは、滑り台やトンネルなどは組み合わせたりオリジナルの複合遊具と、車いすのまま楽しめるトランポリンの2種類。複合遊具は階段のステップを低くしたり、自分のペースで遊べる音楽系遊具を配置したりと誰もが安全に楽しめる工夫を施した。11日は県の担当者らが同校を訪れ、5年生に最終決定したデザインを示した。河合菜直さん（11）は「自分たちの提案から生まれた世界で一つの遊具で、自慢になる。完成したら遊んでみたい」と笑顔で話した。

県の担当者（右）の発表を聞く児童ら
富山市新保小学校

オリジナルの複合遊具のイメージ図

令和7年11月12日 北日本新聞



複合遊具



インクルーシブトランポリン

6. 遊具増設について

令和7年11月 児童の提案を反映した遊具の工夫



決定した遊具には、子どもたちの学びや体験を通じて考えた工夫が随所に反映されている。

遊具は、令和8年秋ごろ
供用開始予定

6. 遊具増設について

令和7年11月 新保小学校 学習発表会での発表

- ・遊具増設に向けて今年度取り組んできた内容について、新保小学校の学習発表会で5年生が発表を行った。
- ・発表では、委員や指定管理者の話を通してインクルーシブについて学んだことや、県・指定管理者と連携しながら、大切な人たちのために必要な遊具等を検討してきたことが紹介された。
- ・こうした検討を経て、実際に整備する遊具が決定したこともあわせて発表され、子どもたちの学びの成果が保護者や地域に共有された。



令和7年11月27日 富山新聞

